

# 体育科学習指導案

指導者 熊野町立熊野第四小学校  
教諭 ○○ ○○

- 1 日時 令和2年11月10(火) 第2校時
- 2 学年 第4学年○組
- 3 単元名 「より遠くへ!めざせ幅跳び名人」 走り幅跳び

## 4 単元について(ゴシックは共生の視点)

### (1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領体育第3・4学年「C 走・跳の運動」「ウ幅跳び」を受けて設定した。短い助走から踏み切り足を決めて上方に強く踏切って高く跳んだり(知識・技能)、自己の能力に適した課題の解決を見付け、動きを身に付けるための活動の仕方を工夫したりするとともに、考えたことを友だちに伝えたりすること(思考力・判断力・表現力)や、運動に積極的に取り組み、きまりを守って**誰とでも仲良く運動したり友だちの考えを認めたり**、場や用具の安全に気を配ったりする(学びに向かう力)ことをねらいとしている。

### (2) 教材観

本教材は、短い助走から片足で踏み切り、どれだけ遠くに跳べるかを目指した運動であり、調子よく走ったり跳んだりする心地よさを味わうことができる運動である。本教材においては①自分に合った短い助走から片足で調子よく踏み切ること②膝を柔らかく曲げて両足で着地することを中心に行いながら自己の課題を見つけ学習していく。また、個々によって課題が異なるため個々に応じた課題を克服していくためには、場の設定に工夫が必要である。フォームの改善などは自分では客観的には見られないため、ICT機器を活用し、**友だちと助言し合ったり、励まし合ったりするなど協力して運動を行っていく必要がある。**

### (3) 児童観

児童の実態についてアンケートをもとに記載しています。

### (4) 指導観

指導に当たっては、個人の伸びを目標とできるように、最初の記録との差をポイントとし、**個々の伸びをポイント化したものでグループの得点をつけることによって子ども相互の関わり合いを増やしていきたい。**

①自分に合った短い助走から片足で調子よく踏み切ること②膝を柔らかく曲げて両足で着地することから個々の課題を客観的に把握し、課題解決に向かうために、ICT機器を活用して**グループで助言を行うとともに**、そのための視点を明確にしていきたい。また、自分の課題を解決する場を

作るために様々な場を作っていく。学習の最初には、ドリル練習（名人への道）を取り入れ、基本の動きを覚えることができるようにしていきたい。

## 5 単元目標

知識及び技能	幅跳びの行い方を理解するとともに、自己の記録の伸びや、目標とする記録を達成することを目指しながら、短い助走から調子よく踏み切って跳ぶことができる。
思考力、判断力、表現力等	自己の課題に合った練習の場を選んだり、自分や友達の考えたことを他者に伝えたりすることができる。
学びに向かう力、人間性等	運動に進んで取り組み、約束を守り助け合って運動したり、場や用具の安全に気を付けたりすることができる。

## 6 単元の評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅跳びの行い方をすることができる。</li> <li>短い助走から片足で調子よく踏み切り跳ぶことができる。</li> <li>膝を柔らかく曲げて、両足で着地することができる。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅跳びの動きを身に付けるための練習の仕方を知るとともに、自分の課題に合った練習方法や練習の場を選んでいる。</li> <li>動画や互いに見合う中から自分や友だちの課題を見付け、解決する方法を考え伝え合うことができる。</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に運動に取り組もうとしている。</li> <li>計測や記録など、分担された役割を果たそうとしている。</li> <li>場や用具の安全に気を配っている。</li> </ul>

## 7 指導・評価計画案（全8時間）

次	第1次	第2次				第3次		
時数	1	2	3	4	5	6	7	8
学習の流れ	①オリエンテーション（用具ルールなどの確認）	①整列・挨拶・準備運動・場の準備						
		②名人への道（ドリル練習）						
		③めあての確認						
	学習の進め方を知り、最初の記録をとることができる。	片足ふみきりをの名人になろう！ 助走のリズムをつかむことができる。	力強く踏み切ることができる	フワッととびだすことができる。	膝を曲げて柔らかく着地することができる。	「ん」で着地することができる。	自分の課題を見つけて練習することができる。	今までの技を使って幅跳び大会をすることができる。
		④練習タイム						
	⑤最初の記録	⑤プチ記録会						
		⑥振り返り・片付け・挨拶						
知識・技能		◎	◎	◎	◎	◎		○
思考判断表現		○	○	○	○	○	◎	
学びに向かう	○						○	○

## 8 本時の学習展開 (本時4/8時)

### (1) 本時の目標

- ・リズムに合わせて助走し、片足で強く踏み切った後にフワッと跳び上がることができる。

### (知識及び技能)

- ・互いに見合う中から自分や友だちの課題を見付け、解決する方法を考え伝え合うことができる。

### (思考力・判断力・表現力)

### (2) 学習の展開

主な学習活動	指導上の留意点 (◇) ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価 (☆) 【評価方法】
1 チームで準備・準備運動をする。  2 名人への道(ドリル運動)をする。  3 本時のめあてを確認する。	◇安全に気を付けて素早く場を作るように指示する。  ◇本時のねらいに迫る動きを中心に、前時までに身につけた動きが確認できるような運動をする。  ◇前時までのコツを確認し、さらに遠くへ跳ぶための方法を考えることができるように助言する。	
<b>高く遠くにフワッととび出すことができることができる。</b>		
4 ゴム切り幅跳びで練習する。  5 プチ記録会を行う。  6 振り返りをする。  7 片付け・整理体操	◇ゴムの印にへそをあてるようにとぶことで、フワッと飛び出せることを確認する。 ◇肯定的な声かけをして回り、児童の意欲を高めるようにする。 ◇児童同士でのよい声かけは全体に紹介する。 ◆ゴムの高さを調節しながら徐々にフワッと跳び出せるように声かけをする。 ◆強く踏み切れていない児童には、前時の踏み切りの仕方を思い起こさせる。  ◇記録会のルールを確認し、自分の役割を確認してスムーズに行えるように表を準備する。 ◇互いを応援し合えるように声かけをする。  ◇よい動きやうまくいった動きについて全体で認め合う場を設け、次時の意欲を高める。  ◇安全に気を付けて素早く片付けるように指示する。	☆互いに見合う中から自分や友達の課題を見付け、解決する方法を考え伝え合うことができる。 (思考・判断・表現) <b>【行動観察・ワークシート】</b>  ☆リズムに合わせて助走し、片足で強く踏み切った後にフワッと跳び上がることができる。(知識・技能) <b>【行動観察】</b>